動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

95.10.25 No. 4283

長期不況、ダンピング、出向、リストラ、賃下げ、失業、解雇、etc…

たたかえば"やればできる!"勝てる!!

大失業時代と、国鉄闘争の位置

シリーズ一号（四二七九号）で、大失業攻撃とは、全産業・全社会に国鉄分割・民営化型の攻撃が仕掛けられるということを見てきました。

ゆえに、勝利の道は、清算事業団闘争の「決着」に動きだした最大の理由は、何よりも、大失業時代の到来を前になんとしても一〇四七名の解雇撤回闘争に終止符を打たなければならないという判断です。清算事業団闘争が続いている状況のもとで、日経連のような大失業攻撃が貫徹できるはずはないのです。「今のうちに闘いに終止符を打ち、火種を消さなければならない」ということなのです。

そこには、大失業攻撃のなかで、膨大な労働者の意識がこれまでの枠を破って大きく揺れ動き、怒りが街にあふれだそうとしているときに、一〇四七名の解雇撤回闘争が不屈に闘い抜かれていることに対する恐怖があるのです。

ガタガタな一向う側

国鉄労働者が、国家をあげた未曾有の攻撃に屈することなく闘いを貫いて今日に至っていることが、いよいよ決定的な意味をもとうとしています。

大失業時代とは、「労働者を雇うことができない」という、二進も三進もいかない資本主義の危機のあらわれです。日経連報告は、「新時代の日本的経営」と名うっていながら労働者を痛めつける方策以外は、金融システムの危機をどう建て直すのか、金額にして、八〇兆円分といわれる慢性的な過剰設備をどうするのか、集中豪雨的な輸出力がもはや不可能な国際的条件のなかで、「日本的経営」の展望をどこに求めるのか等々の核心問題に、何一つ触れることができないのです。

ＪＲにしても、二七兆円の累積債務、分割・民営化政策の失敗、「一〇年目の総括評価」をめぐる矛盾の噴出、政府・運輸省とＪＲ東日本・革マルという敵の側の分裂ー向うは、完全に崖ぷっちにあり、ガタガタなのです。

自信と確信もって

こうしてわれわれは、動労千葉のこの一０年間の闘いに、新めて自信と確信を深めることが出来ます。情勢の節々で、孤立を恐れず、果敢に闘いを挑んだわれわれの決起こそが、一〇四七名の闘いを底辺で支え、今日の情勢をつくりだしたのです。国鉄分割・民営化攻撃に反対して唯一闘いぬいた二波のストライキは、「大胆な妥協」の道に舵を切ろうとした国労中央の屈服をはね返す、修善寺大会の奇跡の逆転を生み、また、九〇年三月、清算事業団労働者への二度目の解雇を前にして、政府・運輸省や社会党田辺委員会による「三月内終決ー清算事業団労働者切り捨て」策動を突破する原動力となったのも、三月一八日正午からの八六時間ストライキでした。

こうしたわれわれの不屈の一〇年間のたたかいが敵をここまでおいつめたのです。勝利の道がここにあります。労働者は、団結を固め、ハラをすえてたたかえば勝てるのです。

そもそも、資本と闘うから労働組合なのです。われわれ動労千葉は、「不正義な攻撃には、絶対に屈しない」「仲間を裏切らない」と、あたりまえのことを胸をはってたたかってきました。

「全国にはばたこう」「労働運動の新しい潮流をつくろう」を合言葉に全ての労働者を獲得し、戦争と大失業とたたかう労働運動の巨大なうねりをつくりだそう！動労千葉はその最先頭でたたかおう！

一一.五集会に総決起しよう！

11.5総決起集会へシリーズ2

★勝浦運転区廃止攻撃粉砕
ストライキに起とう！

大失業時代を撃つ

よみがえれ労働組合！
とりもどせ労働者の団結！
いまこそ反撃に起ちあがろう！

● 11月5日(日) 正午～
● 日比谷野外音楽堂
● 【指定列車】
千葉駅10：59発快速

全力で結集を！

11.5全国労働者総決起集会

動労千葉呼びかけ

新たな10万人合理化粉砕！ 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！